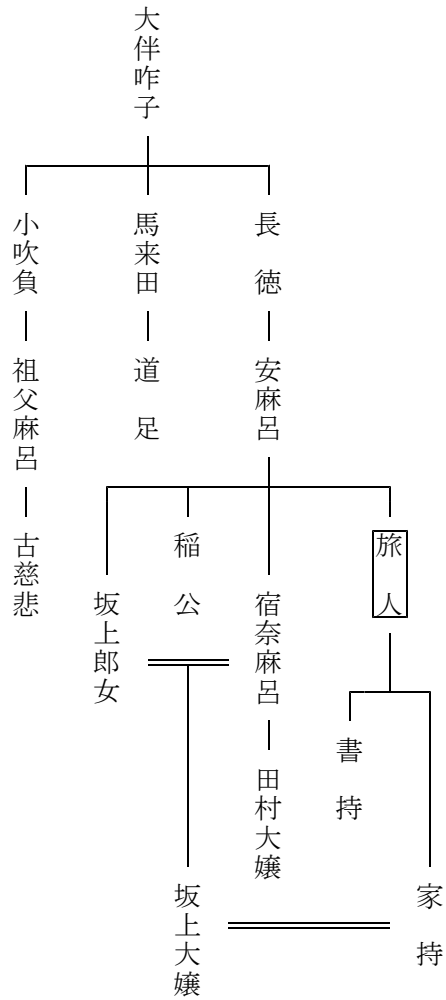


大伴旅人の歌をよむ
く梅花宴の主人、大伴旅人の人と歌く

北川和秀



○從二位大納言大伴宿祢旅人。一首。年六十七。(懷風藻)

大伴旅人年表

西曆	年号	天皇	執政	事項	年齢
六六五	天智四			大伴旅人誕生	1
七〇四	慶雲元	文武	石上		40
七〇五	元二		麻呂	大伴安麻呂、大納言。兼帥	41
七〇六	元三				42
七〇七	元四				43
七〇八	和銅元	元明		(柿本人麻呂、この頃没か)	44
七〇九	元二			正五位上大伴旅人、左將軍。(平城京に遷都)	45
七一〇	元三			旅人、從四位下叙位	46
七一一	元四		藤原		47
七一二	元五		不比等	(古事記撰進)	48
七一三	元六				49
七一四	元七				50
七一五	元八			旅人、從四位上叙位。中務卿任官	51

七二六	七二七	七二八	七二九	七三〇	七三一	七二六	七二七	七二八	七二九	七三〇	七三一	七二六	七二七	七二八	七二九	七三〇	七三一	七二六	七二七	七二八	七二九	七三〇	七三一
元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元
正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正
養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老	養老
神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜	神龜
聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武	聖武
長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王	長屋王
旅人、中納言任官	旅人、正四位下叙位	旅人、征隼人持節大將軍（日本書紀撰進）	旅人、從三位叙位（山上憶良、東宮侍講）	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸	旅人、正三位叙位。芳野行幸
67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52								

暮春の月、芳野の離宮に幸しし時、中納言大伴卿、勅を奉りて作る歌一首
 短歌を并せたり。未だ奏上を経ざる歌

①み吉野の 芳野の宮は 山柄し 貴かるらし 川柄し 清けかるらし 天地と 長
 く久しく 万代に 変はらずあらむ 行幸の宮（三・三一五）

反歌

②昔見し象の小川を今見ればいよよ清けくなりけるかも（三一六）

《参考》天皇芳野宮に幸す。（続日本紀 神龜元・三・一）

大宰帥大伴卿の、凶問に報ふる歌一首
 禍故重疊し、凶問累集す。永に崩心の悲しびを懐き、独り断腸の泣を流す。
 但し両君の大きなる助に依りて、傾命を纒に継げらくのみ。筆の言を尽さぬは、古今、
 嘆く所なり。

③世の中は空しきものと知る時しいよよますます悲しかりけり（五・七九三）

神龜五年戊辰、大宰帥大伴卿、故人を思恋ふ歌三首（そのうちの一首）

④愛しき人の纏きてし敷柩のわが手枕を纏く人あらめや（三・四三八）

右の一首は、別れ去にて数句を経て作る歌。

帥大伴卿の歌五首（そのうち三首）

- ⑤ わが盛さかまた変を若ちめやもほとほとに寧なら樂らの京みやこを見ずかなりなむ（三・三三一）
⑥ わが命も常にあらぬか昔見し象きさの小川を行きて見むため（三三二）
⑦ わすれ草わが紐ひもに付く香具山の故ゆりにし里を忘れむがため（三三四）

大宰帥大伴卿の冬の日に雪を見て京みやこを憶おもふ歌一首

- ⑧ 沫雪あわゆきのほどろほどろに降り敷けば平城ならの京みやこし思ほゆるかも（八・一六三九）

天平二年庚午冬十二月、大宰帥大伴卿、京に向ひて上道みちする時、作る歌五首

- ⑨ 吾わ妹子ぎもが見し鞆ともの浦のむろの木は常世とこよにあれど見し人そなき（三・四四六）
⑩ 鞆の浦の磯のむろの木見むごとに相見し妹は忘れえぬかも（四四七）
⑪ 磯の上に根ね這はふむろの木見し人をいづらと問はば語り告げむか（四四八）

右の三首は、鞆の浦を過ぐる日作る歌。

- ⑫ 妹と来し敏馬みぬの崎かへを還るさに独りして見れば涙ぐましも（四四九）
⑬ 往ゆくさには二人わが見しこの崎を独り過ぐればこころ悲しも 一に云ふ、見もさかず来ぬ（四五〇）

右の二首は、敏馬の崎を過ぐる日作る歌。

故郷の家に還り入りて、即ち作る歌三首

- ⑭ 人もなき空むなしき家は草枕旅にまさりて苦しかりけり（四五二）
⑮ 妹として二人作りしわが山し斎まは木高こく繁かくなりけるかも（四五二）
⑯ 吾妹子が植うゑし梅の樹見ることこころ咽むせつつ涙し流る（四五三）

⑰ 大宰帥大伴卿、酒を讃ほむる歌十三首

- ◎ a 験しるなき物を思はずは一坏ひとつきの濁れる酒を飲のみむべくあるらし（三・三三八）
b 酒の名を聖おほと負おほせし古いにしへの大き聖の言ことのよろしさ（三・三三九）
c 古なの七なの賢さかしき人たちも欲ほりせしものは酒にしあるらし（三・三四〇）
◎ d 賢さしみと物いふよりは酒飲のみみて酔よ泣なするしまさりてあるらし（三・三四一）
e 言はむ為す便すせむ為す便す知らず極きはりて貴たかきものは酒にしあるらし（三・三四二）
f なかなか人にとあらずは酒壺しやくに成りにてしかも酒に染しみなむ（三・三四三）
◎ g あな醜みにく賢さしらをすと酒飲のみまぬ人をよく見ば猿さるにかも似にむ（三・三四四）
h 価あたい無なき宝たからといふとも一坏ひとつきの濁れる酒にあに益えきさめやも（三・三四五）
i 夜光る玉といふとも酒飲のみみて情こころをやるにあに若しかめやも（三・三四六）
◎ j 世よのなかの遊びの道にたのしきは酔よ泣なするにあるべくあるらし（三・三四七）
k 今の世よにし楽しくあらば来よむ生なまには虫むしに鳥とりにもわれはなりなむ（三・三四八）
l 生い者けるものつひにも死ぬるものにあれば今の世よなる間まは楽しくをあらな（三・三四九）
◎ m 黙も然だをりて賢さしらするは酒飲のみみて酔よ泣なするになほ若しかずけり（三・三五〇）

神龜五年（七二八）天平元年の公卿

神龜五年（七二八）夏頃

知太政官事 一品	舍人親王	
左大臣	正二位 長屋王	45 ?
右大臣	(欠員)	
大納言	從二位 多治比池守	(神龜二年、靈寿杖を賜る)
中納言	正三位 大伴旅人	64 (任官後11年目)。夏までに兼大宰帥
	正三位 藤原武智麻呂	49 (任官後8年目)
	從三位 阿倍広庭	70
参議	正三位 藤原房前	48
非参議	從三位 藤原宇合	35 式部卿

★天平元年（七二九）二月十二日 長屋王の変

天平元年（七二九）三月四日現在

知太政官事 一品	舍人親王	
左大臣	(欠員)	
右大臣	(欠員)	
大納言	從二位 多治比池守	(天平二年九月八日、薨)
	正三位 藤原武智麻呂	50 三月四日、任大納言
中納言	正三位 大伴旅人	65 兼大宰帥
	從三位 阿倍広庭	71
参議	正三位 藤原房前	49 (九月二八日、任中務卿)
権参議	從三位 多治比島守	62 大宰大弼。二月一日、任権参議。三月四日、 從三位
	從三位 石川石足	63 左大弁。二月一日、任権参議。三月四日、 從三位 (八月九日、薨)
	正四下 大伴道足	彈正尹。二月一日、任権参議。三月四日、 正四位下。(九月二八日、任右大弁)
非参議	從三位 藤原宇合	36 式部卿
	從三位 藤原麻呂	35 京職大夫。三月四日、從三位